



横浜市立相沢小学校

11月号

学校だより

令和元年10月31日

SDGsに参加しよう

副校長 今野 敏晴

私が地域周りをしていると「ペットボトルキャップが溜まったから持って行って。」と声をかけられることがあります。また、学校に直接持って来てくださる方もいます。本校の児童運営委員会が行っている「ペットボトル」と「アルミ缶」回収の取組をご存じで協力くださっているのだなあと感謝の気持ちで受け取っています。

アルミ缶は木曜日、ペットボトルキャップは金曜日に児童運営委員会が体育館の前でご家庭から子ども達が持ってきたものを回収し、数を数えお昼の放送で全校に発表しています。また、年間を通して集計を行っています。**昨年度実績は、アルミ缶 230kg、ペットボトルキャップ 15 万個**です。学校にも少しお金が入り植樹など環境整備に使わせていただいています。ペットボトルキャップ回収の活動は、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に協力し、発展途上国の子ども達の健康にかかわっています。この活動は、SDGsにおける3つの目標（③健康である⑫責任をもって消費する⑰目標のために協力する）にアプローチをしています。

SDGs（エスディージーズ）は、最近の教育界でも大事なキーワードの一つになっているものです。2015年に開催された国連サミットで、持続可能な開発を実現するために新たな目標を定めました。それが「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals）、通称SDGsです。2030年までを見据えたSDGsは、17の目標（ゴール）と169のターゲットで構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを謳い、世界のあらゆる場所で貧困や不平等を終わらせるため、そして環境を守るため、地球規模の課題解決を目指しています。

開始から3年半経過しましたが、世の中にまだ広く浸透していない現状があります。2018年に実施した調査によると、SDGsの認知度は14.8%。認知度自体はまだ低いものの、SDGsの17の目標テーマを提示した上で共感度の平均は73.1%と高く、理解が進めば今後のアクションにつながっていく可能性があるという結果が出ています（「SDGsに関する生活者調査」電通）。さらに、東京オリンピック・パラリンピックは、SDGsを推進する大会と位置づけられており、再生エネルギーの利用や気候変動対策など様々な取組が行われ、今後に向けて一層の関心の高まりが期待されます。

SDGsの視点で本校の本年度の取組を見てみると、上記の他にも児童会が計画した「公園清掃」では、地域の方と一緒に公園清掃に取り組んでいます。また、各学年の総合的な学習（AIAI）を中心に活動を続けています。4年生「探検 発見！わたしたちの和泉川」では、川の生き物や環境についてまちの方に協力いただきながら調べています。5年生「Go!5!プロジェクト」では、公園清掃や本の読み聞かせ活動に取り組んでいる地域の方の存在に気づきインタビューを繰り返すことで、自分たちもまちのために何かやってみようという思いをもって活動しています。6年生「調べて発見！誰もが住みよいまちづくり」では、愛成苑見学を通し働く人や利用者、施設について興味をもち、他の施設でも同じような工夫があるか調べています。

無理にSDGsを前面に出すことがなくとも子どもは学習したり活動したりする中でSDGsに触れています。SDGsは、まちのために自分たちができることを考え、持続可能な取組を広げていく視点です。また、まちとつながり、学習を広げ深めていく中で、価値観や行動、生活がより豊かになる動機づけともなります。

2030年は、今の子ども達が大人になるときのゴールです。持続可能なまちづくりの視点でもあり子どもたちだけのゴールではありません。歯を磨くとき水を出しっぱなしにしない、学校や地域の行事に参加する、明るくあいさつをする、食品ロスをなくすために残り物を上手に使う、落ちているごみを拾う、ごみの分別をするなど身近なところ、できることから我々大人も参加してみませんか。また、子どもたちがまちをよくするために学校から地域にでたときには温かいご支援をよろしく願いいたします。